

つながりを 永遠に

日本赤十字社が
〜 結んだ絆 〜

vol. 2
全7回

日赤 被災13万世帯に家電6点寄贈

冷蔵庫に洗濯機、テレビに電子レンジ、電気ポットに炊飯器。現代の暮らしに欠かせない6つの家電製品が、既に室内に完備されていた。「仮設に移る時に家電製品がもらえるらしいとのうわさは避難所で聞いていましたが、詳細は分からず半信半疑でした。実際に目にして『本当だったんだ』と驚いたのを覚えています」。名取市閑上の長沼俊幸さん(58)は、その時の喜びを昨日のここのように思い返す。

震災の津波で名取市閑上の自宅ごと内陸に2キロ流された。自



家電6点を13万世帯に贈った壮大なプロジェクト。搬入の現場ではボランティアの献身が大きな力になった
＝2011年4月、釜石市

身を含め一家7人は無事だったものの、住まいはもちろん家財はすべて失った。身を寄せたのは小学校体育館の避難所。300人余りが肩を寄せ合う共同生活は、テレビはあってもチャンネルの自由は当然なく、衣類を洗うにも洗濯機は予約制。そんな日々が2カ月続いた。

市内の仮設住宅に移ったのは2011年5月末だった。避難所を出られた安堵感の一方で、全壊した自宅のローンを抱えたまま、

名取市閑上 長沼俊幸さん(58) 「生活再建の大きな一歩になりました」

水道設備の家業の浮沈も見通せない中で家財を揃える負担は大きかった。「着の身着のままで避難したので、仮設で暮らすのに必要な家財は何もない。そんな中での6点セットは、生活を立て直す大きな一歩になりました」。長沼さんは感謝の思いを新たに

する。
日赤は東日本大震災で、「みなし」を含めた仮設住宅に入居した13万世帯に家電6点セットを贈った。家電の提供は災害救助法が定める支援の対象からは外れていたが、過去の災害では支援金の多くが家電購入に充てられていた事実を重視「生活再建に果たす役割は大きい」と判断し、岩手、宮城、福島の前例のないスケールの支援に踏み切った。

費用は297億円に達した。財源

は各国の姉妹赤十字社を中心とする海外111組織からの救援金。中には家電がぜいたく品となる経済的に貧しい国からの援助もあった。その事実を初めて知った長沼さんは「そこまでしてくれたのかと驚くとともに、改めて感謝の気持ちがこみ上げますね。『モノ』をいただいたのは確かですが、今思えばエール、『心』をもらったのだと思います」とかみしめる。

17年7月、長沼さんは6年半に及んだ仮設生活に別れを告げ、生まれ育った閑上に再建した自宅に移った。傷みが顕著だった洗濯機は廃棄せざるを得なかったものの、残る5点は新居に移され、今も現役で活躍する。中でも炊飯器は長沼さんが会長を務める閑上中央町内会

の親睦行事で活用され、新しいコミュニティ作りに一役買う。支援物資であることを明示するため、家電6点にはどれも赤十字のシールが貼られている。仮

長沼さんのメッセージを
動画でも公開中

取材時の様子を短編の動画にまとめました。右の2次元コードからアクセスしてください。



世界各地からの救援金を元手に被災者に贈られた冷蔵庫や電子レンジは、長沼さん方ではいまだに現役。「10年たっても感謝の気持ちは変わりません」
＝2021年1月、名取市閑上